



小さな町だからこそその学校と社会教育 町史編さん協力員 上野 節子(現代担当)

町史編さん協力員として、現代編「教育と文化」を担当しています。折しも今年節目の年の私は、先日同期会で懐かしい面々と再会しました。会話の中では、校庭を埋め尽くした私たちを前に挨拶される校長先生の遠く小さな姿、赤・白・青等5色のはちまき姿の私たち、放課後の校庭の場所取りなど、多くの思い出がよみがえりました。

学校は、社会や町の変化、企業の盛衰までも映し出します。戦後、順調に人口が増加した時代には、町内の児童生徒数は2千人を超えるほどでしたが、経済活動が都市に集中し始めた昭和40年代(1965～)には、町内の学校も減って小学校4校、中学校2校の6校となりました。

またこの時期、社会教育にも大きな変化が見られました。昭和39年(1964)の川上公民館完成を皮切りに、翌年には小坂公民館と七滝公民館が建築され、地域活動がより充実されていきました。

この時代の地域社会の課題は明確で、地域にも力がみなぎっていたと思います。戦後における地域での暮らしの再建が主流の活動から、老人クラブや青年会活動、また芸術文化連盟が生まれ、家庭教育学級や消費者生活学校など、生活を豊かにするための学習活動が活発になりました。

今改めて叫ばれている協働、住民による地域づくりそのもので、町の基盤を作りました。七滝漬物コンクール(我が家の味自慢)や老壮大学、十和田湖山開きなどが連綿と続いていることは、先輩たちの思いの継承であり、もはや文化と言えるものです。

昭和50年代(1975～)に入ると小中学生や高校生、保護者を対象にした事業が展開され、学校と社会教育

の連携が少しずつ広がりを見せていきました。

活発な団体活動や学習活動に支えられ、町民の学習意欲や文化水準は高く、昭和55年(1980)以降に図書館や博物館郷土館、そして平成元年(1989)には中央公園内に生涯学習の拠点「交流センター・セパーム」が完成し、テニスコート、野球場、陸上競技場を含め、教育・文化の町としての姿が整いました。

この社会教育施設、体育施設の整備がなければ、新総合教育エリア構想は生まれなかったでしょう。ハード面が整う中、ソフト面では少子化が我が町にとって深刻な問題となりました。平成20年(2008)のエリア構想策定時の小中学生はおおよそ500人、10年後はおおよそ300人と推計され、町は小学校中学校各1校とし、9年間の連続性、継続性を生かした小中一貫教育を実践するため、学校統合を進めました。

学校統合は、受け入れざるを得ない現状を理解しても、地域の落胆は大きかったでしょう。地域、推進した町担当者、双方のご労苦は想像に難しくありません。複数の学校統合を経て平成25年(2013)、県内初の施設一体型小中一貫校がスタートします。

小中合同での学校行事に対する保護者の否定的なご意見、小中合同事業実施のための会議や研究会など、これまで以上に教職員の皆さんは多忙を極めたことでしょう。そのご努力にはこの場をお借りして、心から敬意と感謝を表します。

社会教育の勢い、充実があって教育・文化の環境が整い、今の小中一貫校が生まれました。小さな町だからこそ、お互いが関心を持ち、身近な存在になれます。教育委員会には、双方の多様な関係性を結ぶ大きな役割があると思っています。

十和田出張所 開設時間の変更について

十和田出張所について、4月1日から開設時間を変更します。

[現在の開設時間] 8時30分～17時15分

[変更後] 9時～16時45分

■お問い合わせ先 総務課総務管財班 (TEL29-3901)

秋田県市町村交通災害共済・不慮の災害共済の申込み受付中

この共済は県内市町村の住民がお互いに掛金を出し合うことにより、交通災害、不慮の災害にあった被災者を救済する制度です。

加入希望の方は、各世帯へ郵送した申込書に掛金を添えて、秋田銀行・北都銀行・郵便局・役場等窓口へお申込みください。



■お問い合わせ先 町民課町民生活班 (TEL29-3928)

水道の開閉栓について

これまで、水道の開閉栓は随時行っていましたが、4月より開閉栓希望日の1週間前までの受付に変更となります。開栓・閉栓の依頼は余裕を持って早めに水道班までご連絡をお願いします。

(開閉栓手数料の600円に変更はありません)

■お問い合わせ先 建設課水道班 (TEL29-3911)

小坂町消防団

春の駆付訓練サイレン吹鳴のお知らせ

春の火災予防週間に合わせ、小坂町消防団の駆付訓練を行います。早朝のサイレン吹鳴等でご迷惑をおかけしますが、ご理解くださるようお願いいたします。

■実施日時 4月5日(日) 5時30分～

■お問い合わせ先 町民課町民生活班 (TEL29-3928)